

誰もが輝き 希望溢れる 東海の創造

人の可能性は無限大。

国や地域、そして周りの人をも、より良い変化させる力をもっている。

だからこそ様々なことを学び、挑戦することが、まだ見ぬ未来を希望溢れるものとできると私は信じる。

【はじめに】

日本において平成という時代はどのような時代であっただろうか。あなた自身は平成という時代にどのような存在であったのか。そして令和という新時代に、あなたはどんな存在であり、どのような時代を創ろうと想い、行動を起こすのだろうか。私は責任世代ということへの自覚と覚悟をもって、誰もが輝ける希望溢れる時代を切り拓く存在になりたい。

いつの時代も国、地域をつくるのは人であり、そこにはリーダーの存在が必要不可欠である。その存在となりうる人材こそ J A Y C E E であると私は信じています。令和という新時代が幕を開けた、そして 2020 年代へと進むことをきっかけとして、メンバー一人ひとりに今一度 J C の歴史と伝統を振り返ってほしい。そして、これからの時代に必要とされる J C がどのような姿であるべきかを考えてほしい。

私は、J C を新たな時代をこれまでと変わらず牽引できる組織へとさらに進化させ、次代を担うリーダーを育成し、地域社会により良い変化をもたらす運動を展開、そして多くの人からの信頼を得られる J C の姿こそが、時代において唯一無二の団体となると確信します。

だからこそ、今を生きる J A Y C E E として、共に時代を築いていこう。

【持続可能な組織の確立に向けての挑戦】

ここ近年、多くの会員会議所が会員減少、在籍年数低下等の問題を抱え活動を行っていることは事実であり、存続すら危ぶまれる状態の会員会議所もあるのが現状です。そのような中で、本来 J C が目指すべき運動が展開できているのでしょうか。またこの現状を悲観的に捉えて、どこことなくこれまでの歴史に胡坐をかき、とにかく組織の維持に努めているのではないのでしょうか。それでは組織の未来はないと感じます。

私はこの現状が J C にとっての好機だと考えています。なぜならば組織としての在り方

をメンバー一人ひとりが真剣に考えられる絶好の機会であり、その考えを指針として行動に移すことで組織改革へとつながられる、そして持続可能なJCへと進化させられる時ではないでしょうか。改革といってしまうと過去からの歴史、伝統を否定すると捉われがちですが、JCにはそれよりも重要視しなくてはならない創始から受け継いだ理念があります。だからこそ、古きを温めて新しきを知る、そして新しきを創るという「温故創新」の信念をもって、現状に立ち向かっていきたい。そのためにも、地区協議会からの発信だけでなく、多くのメンバーと語り合える機会、相互理解の上で組織の進化を進められる環境を創っていきます。この機会がきっかけとなり、82会員会議所の運動が最大化され、地域において信頼を得る組織となるとともに、誰もが自然と集う組織へと進化することで、持続可能な組織が構築されると信じます。

【次代を輝かすJAYCEEへの成長】

JCにおいて、私が最も大切にしているのは、自らが40歳までの限られた時間の中で計り知れない成長を果たし、卒業を迎え、その後の人生においてJCという肩書き無しに、地域社会により良い変化をもたらせる人材になりたいという想いがあります。だからこそJCがこの先も地域社会を牽引する人材を輩出する団体であって欲しいと強く願います。

現在は、日本JC全体で平均在籍年数4.5年と短くなっている中でも、会員会議所はこれまでと同様、理事長をはじめとする執行部、理事といった形を存続しています。しかし、それぞれの人材の経験不足が、現在も顕著に表れているといっても過言ではないと感じます。だからこそ、現状に満足することなく、持続可能な組織を確立するためにも、そして地域社会を発展に導く運動をさらに強めるためにも、次代を担うメンバーへの人材育成にさらに力をいれていくことが必要だと考えます。

日本JCとしても日本アカデミー、そしてJCIにおいても国際アカデミーという次代を担うリーダー育成に向けての素晴らしい成長の機会はあるものの、人数制限等により限られた場所であることも事実です。そのような中で、2019年度に東海地区協議会として展開した「東海アカデミー」を基軸として、2020年度もリーダー育成に向けた機会を創出します。これからのリーダーにおいて必要な要素は、多様化社会において様々な知識、経験を持ち合わせ、これまでの固定概念に捉われず、多くの人を巻き込みイノベーションを起こせることだと考えます。だからこそ、様々な分野におけるエキスパートから学び、実践を通してリーダー育成していきます。そこで成し得る経験こそが、今後のLOMのさらなる発展、そして82会員会議所をつなぎ、次代の東海、地域を輝かしきものとすると確信します。

【希望溢れる東海を目指して】

私たちが住み暮らす地域には、悠久の歴史、文化、伝統が各地に散在しており、経済環

境、交通インフラ網においても恵まれた地域であると感じます。しかし、日本全体で考えれば、アジア諸国との関係悪化、人口減少、超高齢化社会への懸念等の様々な問題を抱えていることも事実です。これらの問題の悪化がこの地域に大きな影響を与えることも事実であり、現状に満足しては、社会が疲弊することは明らかなです。だからこそ、東海の強みを活かし、東海から日本に活力を与えられる、そんな地域へと進化させていきたい。そのためには各県単独の利益希求を、より広域的な考えで展開できる仕組みへと変化させていかななくてはなりません。そこで重要となるのが広域的なネットワークであり、まさに私たち J C の役割ではないでしょうか。

東海地区内 8 2 会員会議所が、それぞれの地域に根付いた運動を展開しており、誰よりも故郷を良くしたいと志を抱いている中で、その想いを広域的に結びつけることで、東海全体の経済発展に向けた形へと導くことができると考えます。そして各地が抱える問題解決に向けても、運動をより効果的に展開できると考えます。さらには東海地区の抱える問題でもある、南海トラフ地震、近年増加する豪雨災害への対処も活用が可能であると考えます。

私たちは約 4 2 0 0 名の現役メンバーだけではありません。卒業された先輩諸兄姉、それぞれの会員会議所がこれまでに培ってきたパートナー、そして周囲で私たちを支えてくれている家族を含めれば、この地域を大きく変化させられる力も持ち合わせています。この力を存分に発揮し、地域社会に大きなイノベーションを起こし、東海から希望溢れる日本を築いていきましょう。

【未来の地域社会を輝かす人材の育成】

1 9 7 4 年より 4 6 年間に亘り、東海地区最大の人材育成事業として受け継がれてきた J C 青年の船「とうかい号」は、その時々時代の背景を照らし合わせ、そして未来の地域社会を思い描き、多くの若者を成長へと導いてきました。本年もこれまでに積み上げられてこられた歴史、伝統、そして想いを継承すると共に、令和という新時代を牽引する人材へと成長していただける「とうかい号」を構築していきます。

これからの地域社会において必要となる人材とは、地域社会の抱えている問題を自分事と捉え、それを解決に導く力を持ち合わせる。そして、それに対して多くの人を巻き込み行動を起こせる人材ではないでしょうか。現在は、地域社会の問題が個に直結し、目の前のことを熟すだけで先を考えられない時代と言えます。言い換えると地域社会の問題を解決すれば、おのずと幸せが訪れるといっても過言ではありません。そのような現状において、第 4 7 回 J C 青年の船「とうかい号」は、2 0 1 5 年に国連サミットにて採択され、2 0 3 0 年まで世界が共通して目標達成を目指す、持続可能な開発目標（SDG s）を主軸として、そこに対する考え方から自らの今後の地域社会、企業での役割を考える機会を提供し、地域社会の問題を解決へと導ける人材を育成します。

そして下船後、J C 団員、一般団員にかかわらず約 6 0 0 名が SDG s の概念を用いて

行動に移すことができれば、必ず地域社会に大きなインパクトを与えられ、希望溢れる社会が創造されると信じます。また、新たな「とうかい号」としてのブランディングにもつなげていきましょう。

私たち J C メンバーは未来への投資という部分でも、様々な挑戦ができる機会を創出する役割があります。国際的に最も盛んなスポーツとされるサッカーを通して、日本 J C が主催する J C カップの地区予選大会を開催し、未来を担う子供たちに「グッドルーザーの精神」を伝え、道徳心をもった自立した人材を育成します。そういった運動こそが、地域間の交流人口増加やコミュニティの活性化にも寄与できると確信します。

【持続的に発展する地域社会を創出する東海フォーラム 2020】

東海フォーラムは誰のために開催するのでしょうか。
そして何のために開催するのでしょうか。

メンバー益を求めるだけの開催ならば、場所を固定して開催することに利点が大きく、メンバーにとっては有意義なものになるかもしれません。ただ私はメンバー益、地域益ともに最大化となる東海フォーラム 2020 を開催したいと考えます。そうでなければ、開催の必要性すらないと感じています。

ではメンバー益とは何か。私の考えるメンバー益には 2 つあります。メンバー自身が学びを得られ、その後の活動に対して飛躍するきっかけとなる機会。そしてメンバーが 1 年間展開してきた運動の集大成を外部へと発信し、J C への理解、共感を得ることでブランディングへとつながり、パートナーが増え、その後 L O M の組織拡大につながり、運動をさらに強化できるというものです。また地域益とは、そこに住まう人が気軽に参加でき、その場で得た知識を持ち帰り、地域で発信、展開できることだと考えます。もちろん安易に実現することではありませんが、日本 J C 2019 年度のサマーコンファレンスに参加し、その両輪を兼ね備えた機会を体験したことで、必ず東海地区でも実現が可能であると考えます。

東海フォーラム 2020 が、東海地区のすべての運動が最大化され発信する場となることで、多くの企業、団体、人たちへと J C の存在を示し、地域社会のさらなる発展につながると確信します。

【おわりに】

今を生きていることに責任をもち、未来の自分に誇れる存在となってほしい。

自らの可能性は自らの努力により広がる。そして J C にはそれを最大限に広げられる要素が多くある。かけがえのない同志がいる。

144 J Cは必ずあなたに変化をもたらし、その時間がかけがえのない人生の宝となるはずで
145 す。だからこそ、自分と向き合い、そして1つ1つに対して真剣に取り組んでほしい。さ
146 らには明確な目標をもち、そこに向かって真っすぐに進んでほしい。

147

148 東海地区協議会2020年度は、82会員会議所、ブロック協議会との距離を縮め、相
149 互関係により会員会議所、メンバーの成長、発展の機会を創出するとともに、次代への礎
150 となるべく運動を展開していきます。

151

152 誰もが輝き、希望溢れる東海の創造に向け、共に歩んでいこう。